

ブレース・パスカル Blaise
Pascal (1623-1662)の祈り
祈りと改心

小泉友美
KoizumiTomomi



目次

ブレーズ・パスカル Blaise Pascal(1623-1662) の祈り 祈りと改心	1
--	---

ブレイズ・パスカル Blaise Pascal(1623-1662) の祈り 祈りと改心

ブレイズ・パスカル (1623-1662) の祈り Opuscles より

Sur la conversion du pêcheur 罪ある人の改心 (1653)

Prière pour demander à Dieu le bon usage des maladies 病人を癒すための祈り

ブレイズ・パスカル Blaise Pascal (1623-1662) は、1623 年にフランス中部クレルモン Clermont - Ferrand の法律家の家族の元に生まれました。パスカルは 17 世紀のジャンセニズム (17 世紀に流行した厳格派キリスト教思想の一派) を代表するフランス神学・数学・哲学者であり、キリスト教について様々なメモ書きを残しました。パスカルは晩年、心身の病いに苦しむ中、一心に祈りに身を捧げました。若い時の強烈な神秘体験として、le signe du feu 火のしるしとして、聖クレモンスの夜、午後 22 時半より 1 時間半にかけて、幻視体験を持ちました。

" J'étais aveugle et je vois ;

Je ne sentais pas et je sens;

que me faut - il et que vous faut - il davantage ? 私は盲目であり、そして私は今見えます。私は何も感じられませんでした、私は今感じる事が出来ます。 "

パスカルは見えない神の存在を感覚的に感じ取り、この聖なる存在を触れる事 (toucher) で、神の存在という甘美なもの (douceur) , 激しい熟考 (les réflexions ardentes) を持って、涙の祈り (les larmes de la prière) に任せました。

涙は、le don des larmes 涙の恩恵と称され、泣く行為で苦しみ、すべての悲嘆という負の記憶、負の感情が涙によって清められる事です。

パスカルの死後、病床で身にまとっていた肌着の襟の中に、短い文書が縫い込められて隠されており、そのメモ書きには conversion 改心と呼ばれる個人的な神秘体験が綴られていました。

Opuscles は、小品、小冊子という意味を持ちます。

パスカルは、Sur la conversation du pêcheur 罪ある人の改心について (1653 年頃記述) という作品内で、信仰生活の中で恐ろしい事は、Ecoulement, s'écouler 滅ぼされるまま、流されるままの状態に陥る事です。

" Ecoulement, c'est une chose horrible de sentir s'écouler tout ce qu'on possède 滅ぼされるままに (流されるままに) なるという事は、私達が所有しているすべてが滅ぼされるままになる事を感じるという、恐ろしさです。

すべての自分が所有しているもの (感覚、財産、精神的なもの、肉体的なものすべて) が無くなってゆく事への不安感・ 恐怖感です。

パスカルによると、この Ecoulement は le néant 虚無とも表現されて、すべては虚無 tout est néant であり、このすべてとは" le ciel 空、la terre 地上, son esprit 精神、son corps 身体、ses parents 両親、ses amis 友人達、ses ennemis 敵達、les biens 善きもの、la pauvreté 貧しさ、la disgrâce 失寵、la prospérité 繁栄、l'honneur 名誉、l'ignominie 恥辱、l'estime 尊重、le mépris 軽蔑、l'autorité 権限、l'indigence 極貧、la santé 健康、la maladie 病気、la vie elle-même 人生そのものすべて" であり、自分の魂もいずれは虚無へと戻ってゆきます。

Elle commence à considérer comme un néant tout ce qui doit retourner dans le néant

Prière pour demander à Dieu le bon usage des maladies 病人を癒すための祈りは、パスカルが晩年、亡くなる前の 4 年間、心身の病に苦しんだ折に作られたものです。

キリスト (主) の慈悲深さによって、自分の恥も病も癒やされてゆきます。しかし、病もまた神より送られて来ます。

Vous m'envoyez maintenant la maladie

病気の状態が損なわれる事は神からの罰であり、

J'ai mal usé de ma santé, et vous m'en avez justement puni

世間から切り離されてしまった故のすべての死 (執着が切り離されてゆく事) によって、神とともにあり、改心する事が出来ると言います。

Faites que je me considère en cette maladie comme un espèce de mort, séparé du monde, dénué de tous les objets de mes attachements, seul en votre présence pour implorer de votre miséricorde la conversion de mon cur

パスカルの苦しみはこの祈りの中で、破壊 destruction - détruire という言葉で綴られます。

O Dieu, qui devez détruire toutes ces vaines idoles, et tous ces funestes objets de nos passions !

おお神よ、このすべての虚栄なる偶像を壊して、すべての情熱の対象を壊したまえ!

Faites, seigneur, que je me juge moi-même ensuite de cette destruction que vous avez faite à mon égard

主よ、あなたによって引き起こされたこの破壊について考えさせられます。

または、死 la mort, mourir という言葉で表現させられます。この死は、パスカル 人間の精神生活において) の無駄な行為、物から離させる事です。

O Dieu, qui faites mourir nos corps, et qui à l'heure de la mort

détachez notre âme de tout ce qu'elle aimait au monde !

神様、どうぞ私の身体を死なせてください、死の時にあって、私の魂からこの俗世への執着を切り離してください!

そしてこの死とは自分の意思によってもたらせるものではなく、神によって、その他の

人生、健康と共にもたらされるといいます。

Je ne vous demande ni santé, ni maladie, ni vie, ni mort ; mais que vous disposiez de ma
santé et de ma maladie, de ma vie et de ma mort

私はあなたに健康も、病気も、命も死も望みません。

あなたによって、私の健康と病気、死と命が与えられますから

ブレーズ・パスカルの祈りにおける神による救いとは、ただひたすらに神の意思に委ね
て、なされるままに、結びつくという事です。

Unissez-moi à vous ;

Remplissez - moi de vous et de votre esprit - saint

Entrez dans mon cur et dans mon âme, pour y porter mes souffrances

あなたによって満たされるように、聖霊によって満たされますように

私の魂とところへと入ってください

私の苦痛を取り去ってくださるように

2026 年 3 月 18 日 フランス・アンジェ

平和 祈

ブレーズ・パスカル Blaise Pascal (1623-1662)の祈り 祈りと改心

著 者 小泉友美 Koizumi Tomomi

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
